

鉄

人レース」の異名を持つトライアスロンは、水泳・自転車・長距離走の3種目を連続して行い、タイムを競うスポーツだ。「全日本トライアスロン皆生大会」は、総距離200km弱。皆生の海を泳ぎ、大山の麓を自転車で駆け、弓浜半島でフルマラソンと、己の限界に挑戦しつつ山陰の雄大な自然を満喫できるコースだ。

米子市は弓浜半島の付け根に位置する皆生温泉で、日本初のトライアスロン大会が行われたのは1981年のこと。アメリカでトライアスロンが誕生したほんの数年後だ。皆生温泉の60周年記念イベントとして、旅館の若手経営者たちが企画した。高木均さんは旅館業ではなかったが、メンバーの一員だった。「まずロケーションを生かして、海を使ったイベントにしたかった。なおかつ健康的なイメージで、記念らしく、日本一や、日本初」と冠せることと高木さんは当時を振り返る。

「当時は現在の半分ほどの距離でしたが、警察はじめ、周囲には猛反対されました。鉄人じゃなくて、殺人レースだって(笑)」そこを熱意で説得し、1981年8月20日、日本初のトライアスロン大会が開催された。参加者は全国から53人。ただ一度きりの、記念事業のつもりだった。ところが、初代チャンピオン2人のうちの1人が、有名な

フォークシングガー高石ともやさんであったため、大会がメディアで大きく取り上げられる。トライアスロンという新しい競技とともに、「皆生」の名は瞬く間に全国を駆け巡った。「ワイドショーや週刊誌までもが取り上げ、予想を遥かに上回るPR効果でした。それで来年も大会を開こう、皆生や鳥取県西部の魅力をもっと発信しよう」と

以来、あらゆる機関、自治体も徐々に積極的に協力してくれるようになり、皆生トライアスロンは広域連携のもと、34年の伝統を築いた。



第1回大会から運営に携わってきた皆生トライアスロン協会副競技委員長・高木均さん

「大会後、こういうことをしていいんですか」とたくさん問い合わせがありました。だから、皆生では認めよう。フィニッシュ前200mを「フィニッシュヤーズストリート」と名付け、家族や、大切な人と一緒に走れ

第34回 この夏も燃える！日本トライアスロンの聖地 全日本トライアスロン 皆生大会

水泳3km、自転車145km、マラソン42・195km。
この夏も、鉄人たちが鳥取の海と山に挑む。
総距離約200kmの過酷なレースのために
全国から集うアスリートは約1千人。迎えるスタッフは4千人。
沿道やゴールには大勢の観戦者。
これだけ人を惹き付ける皆生トライアスロンの魅力とは、一体何だろうか。
皆生トライアスロン協会副競技委員長・高木均さんに話を聞いた。

巻頭
特集



上左：フィニッシュ前に手をつないだ第1回大会優勝の2人。左が高石ともやさん、右が下津紀代志さん 上中：家族とともにフィニッシュする選手 上右：バイクレースのアップダウンは国内屈指 左下：飲み物を渡すボランティア 右下：第1回大会のスタートの様子

皆生トライアスロン初出場！

米子市在住 福原 明人さん

40歳を過ぎ、周りからはもう若くない、無理すると言われることが増えてきました。体力もどんどん落ちてくる年齢です。でも、他人に自分の限界は決められたくない、仕事もプライベートも100%の力でまだこれだけできると証明したい、そう考えたとき、身近なところにトライアスロンがありました。社員2人とともにチーム出場、ランを担当します。未経験の距離に加え、本番に予想される厳しい暑さの中での練習はほとんどできませんが、自身の限界に挑戦し、チームの為に完走します。

文・photo 松本千寿子

「この間にしました」
そこには、皆生大会にしかないドラマが生まれる。「フィニッシュの瞬間、その選手が大会にどんな思いを託したか、場内にアナウンスされるんです。プロポーズする人、家族への感謝を伝える人、さまざまです」
限界を超えて帰って来たからこそ伝えられるその思いは、観る者すべての胸を打つ。コメントは選手から事前に提出され、代弁アナウンスはフリーアナウンサーの中岡みずえさんがボランティアでしてくる。完走者全員分、必ず読み上げられる。

皆生流ボランティアの育成

大会に関わるスタッフはおよそ4千人、そのうち3千人はボランティアスタッフだ。県外からもたくさんの方の志願があるが、やはり地元民が主体。笑顔で水や食糧を渡し、選手に声援を送るときは、個々の名前を入れて「〇〇さん頑張れ！」というように叫ぶ。これがとても喜ばれる。

ボランティアたちは一人ひとり、どうすれば選手が気持ちよくレースを楽しめるかを一生懸命考えている。そして、観戦者として応援する人々もまた、選手たちをもてなす心で溢れている。「皆生大会のボランティアの熱意、手厚さは、日本一だと自負しています。選手からも皆生はすごいね！」とよく言われる。

第34回
全日本トライアスロン皆生大会
7月20日(日) 7:00~水泳スタート
21:30 競技終了(どらドラパーク陸上競技場)
主催：皆生トライアスロン協会
鳥取県観光連盟、米子市観光協会
※アスリート、ボランティアの募集は終了しました。

◇皆生トライアスロン協会
TEL 0859-34-2819
http://www.kaike-toriathlon.com

「ぜひ、フィニッシュを観に来てください！フィニッシュヤーズストリートで家族とともに走る姿、彼らの表情を見て、その瞬間を感じるだけでもストーリーがわかる。いいエネルギーをもらえる。その意義がわかると、トライアスロンに参加できる。何も走らなくてもいいんです。感じることでできれば」
なぜ、かくも過酷なレースに挑むのか。その答えは「参加」すれば、おのずとわかるはずだ。

やっばり、自分たちのまちを好きになってほしい。また来てほしい。この大会によって、地域の人たちのホスピタリティが大きくなって感じています」

フィニッシュを観に行こう！

第34回となる今年の大会は、7月20日(日)に開催される。午前7時にスタートし、先頭者が「どらドラパーク陸上競技場」に帰ってくるのが午後3時頃だ。「ぜひ、フィニッシュを観に来てください！フィニッシュヤーズストリートで家族とともに走る姿、彼らの表情を見て、その瞬間を感じるだけでもストーリーがわかる。いいエネルギーをもらえる。その意義がわかると、トライアスロンに参加できる。何も走らなくてもいいんです。感じることでできれば」

文・デザイン/飯田龍葉 写真提供/皆生トライアスロン協会